

# コナガ情報第2号 (キャベツ)

令和2年3月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## コナガに好適な気象状況が続きます！今後の発生量に注意！

### 1 発生状況

2月下旬に実施した巡回調査の結果、キャベツにおけるコナガの寄生株率は平年並でした。名古屋地方気象台2月27日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い見込みです。本虫の発生に好適な状況が続くため、今後の発生量の増加に注意が必要です。

### 2 コナガについて

幼虫(図1)は、体の両端がとがりぎみの紡錘形の小さな青虫です。葉裏から円形または不規則な形に葉肉だけを食害し、葉表の表皮を残すため葉が透けて見えます(図2)。

関東以西では、主に春から初夏、秋の発生が多いですが、冬期にも緩やかながら成育を続け、加害します。

降雨の影響を受けやすく、雨が連続すると成虫(図4)、幼虫ともに減少します。反対に、雨が少ないと発生が多くなります。



図1 コナガ終齢幼虫



図2 コナガによる食害



図3 蛹



図4 成虫

### 3 防除対策

- (1) コナガは、春先に気温が高くなると成育が早くなり、発生量が増加します。  
ほ場での発生状況をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。
- (2) 周辺に収穫間際の作物がある場合は、特にドリフトに注意し農薬を散布しましょう。
- (3) 薬剤抵抗性がきわめて発達しやすいので、IRAC コードを参照して同一系統の薬剤を連用しないよう注意しましょう（表）。
- (4) ジアミド系（IRAC コード：28）やオキサダイアジノン系（IRAC コード：22A）等の農薬について、栽培地域で防除効果の低下が疑われる場合は、別系統の薬剤を散布しましょう。
- (5) 発生が多いほ場は、周辺ほ場への発生源になるので、収穫終了後は残渣を速やかにすき込みましょう。

表 コナガに対する主な防除薬剤（キャベツ）

薬剤名	成分	使用時期	使用回数	IRAC コード
グレーシア乳剤	フルキサメタミド	収穫7日前まで	2回以内	30
モベントフロアブル	スピロテトラマト	収穫7日前まで	3回以内	23
スピノエース顆粒水和剤	スピノサド	収穫3日前まで	3回以内	5
ディアナSC	スピネトラム	収穫前日まで	2回以内	5
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩	収穫前日まで	3回以内	6
フローバックDF	BT	発生初期 但し、 収穫前日まで	-	11A

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2019/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2019/mechanism_irac03.pdf) を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。